

政府・警察庁・静岡県のデジタル化構想

政 府：デジタル社会の実現に向けた重点計画（R4閣議決定）
⇒国民の利便性向上、少子高齢化への対応/デジタル庁設置 等
警察庁：行政手続オンライン化、運転免許証とマイナカード一体化、
警察情報管理システムを共通基盤Sに一体化/組織改編 等
静岡県：ふじのくにDX推進計画（R4）⇒R13までにDX推進
市町・民間企業・有識者と連携/デジタル戦略局設置

静岡県警察のデジタル化構想

【第1期】
挑戦ステージ（R5～R7）
アナログからの脱却
業務プロセスやシステム全体の**デジタル化を推進**（※55システムをデジタル化）

【第2期】
推進ステージ（R8～R10）
警察業務のDX化

あらゆる場面で最新デジタル（AIなど）や蓄積された多様なデータを活用、**新たな治安事象への対応強化**

【第3期】

定着ステージ（R11～R13）
DXの定着による執行力の維持向上
デジタル技術を意識することなく活用、**誰でも、いつでも、どこでも、デジタルアクセス可能に、**
デジタル化により生じた時間・人員を真に必要な業務に重点配分

目指す姿

県民の利便性の向上と業務の合理化・高度化に伴う人的資源の効果的活用と安全安心の更なる確保

第2期到達目標

先端技術/多様なデータ活用による『新たな治安事象への対応強化』

課題

- I. 手段の目的化：変化が激しい環境の中スピードを優先、開発/導入が目的化するケースが散見、ニーズとの乖離/利用者視点が不足しシステムには改善の余地
- II. セキュリティ制約：個別最適による導入が進み全体最適によるプロジェクト管理が不十分、クラウド/生成AI/無線技術等の活用にセキュリティ制約
- III. デジタルリテラシーの不足：同一業務にアナログとデジタルが混在/業務ルール未整備のためDXが普及せず、デジタル化への不安/リテラシー不足

第2期方針

- ✓ 匿名・流動型犯罪グループ対策、サイバー事犯を始めとする犯罪の高度化、災害激甚化等、時代とともに変容する治安課題に対応するため、先端技術の活用を軸に警察力を強化
- ✓ デジタイゼーションからデジタルイゼーションに完全移行するため、第1期を通じて顕在化した障壁を打破、次の3つの方針を「目的と成果志向」を念頭に推進
 - I. 「選択と集中」による戦略的導入：システム統合/BPRIによる予算創出、AI/無線LAN/ドローン/ロボティクス等先端技術のPoC（概念実証）/導入、県/他県警/警察庁と連携
 - II. 「ワークフロー2.0」の策定：業務標準化/生産性向上させるデジタル活用前提のガイドライン策定へ
 - III. 意識改革の推進とリテラシー向上：アナログとデジタルが混在する業務を整理しアナログ的ワークフローを撤廃/マネジメント層の意識付け強化/中核人材の計画的育成/リテラシー向上

I. 先端技術活用による警察業務の高度化・最適化
～「選択と集中」による戦略的導入～

- 限られたリソースで変容する社会情勢や治安課題に対応していくため、効果が期待できる分野に**集中的にリソースを投入**し、警察行政サービスの充実及び事件・事故・災害対応の高度化・迅速化等、**県民の安全安心を確保**する取組を推進
- 生成AI、ビッグデータ、無線LAN接続、ドローン、ロボティクスといった先端技術のPoC（概念実証）を関係者と連携し実施
- 各先端技術の**ワーキンググループ**（タスクフォース）を設置して継続的に検討を重ね、研究による知見を蓄積し、**最適な技術**を見極め組織全体に**早期実装**を目指す。
- **新たな治安課題**である匿名・流動型犯罪Gの実態解明やSNS上で行われる闇バイト募集等の違法・有害情報対策等巧妙化する犯罪、先端技術を悪用した新たな犯罪への備え。国主導の刑事手続IT化へ対応
- 行政手続オンラインやキャッシュレス決済等、第1期に導入したデジタル技術を幅広く県民に周知し、**県民の利便性向上**を図る。

II. バックオフィス業務の効率化・標準化
～「ワークフロー2.0」の策定～

- 静岡県警においては、昭和から平成時代に構築し、慣れ親しんだ紙書類による業務完結と令和に導入したデジタルによる業務完結が**混在**している状況でデジタル化の便益を最大限に享受していない。
- 警察力を最大限発揮するためには、バックオフィス業務の**効率化・標準化**が時代の要請であり、**業務ガイドライン**を策定し、組織全体の**生産性向上**を図ることが必要
- アナログとデジタルが混在する業務を全庁的に整理するため業務フローを見える化、デジタル化を阻む課題を特定し解決を図り、業務プロセスを**全庁的に統一**
- DX分科会員にて勉強会を開催し、継続的に検討を重ね知見を蓄積し、「**ワークフロー2.0**」を策定していく
- 策定後に浸透を図るため、マネジメント層へのフォロー、DX推進リーダーの委嘱等を実施

III. デジタル構想を担う人的・物的基盤の強化
～意識改革の推進とリテラシー向上～

- 職員に複数のシステムを使い分ける負担を強い、操作や情報検索に手間がかかり、業務効率や**生産性が横ばい**で推移している現状
- DX推進本部を設置し推進しているが、現場の意見を吸い上げきかず、温度差や具体策の不足によってDX化は**道半ば**。現場とのコミュニケーションを密にし意見集約
- **ミドルマネジメント層**による強力なリーダーシップの発揮が求められることから、ミドルマネジメント層を対象としたセミナーを実施
- DXを現場の業務に落とし込み、部門間の壁を越えてデータ活用と業務変革を主導できる**中核人材**を育成
- 職員一人ひとりがDX化の意義を理解し主体的にデジタル技術を活用できるよう、eラーニング、デジタル資格取得の励行、活用事例の共有等により、学習と実践を循環させる仕組みを構築
- 限られたリソースを有効活用するためには、レガシーシステムの廃止や重複機能の解消等、システム合理化・最適化の中長期的な取組を推進